

# No. 1086

## 田中首相、第2次外遊へ

— ニュージーランド —

ニュージーランド・オーストラリア・ビルマの三ヶ国歴訪に発った田中首相は10月28日、最初の訪問国ニュージーランドのオークランド空港に到着しました。空港では、ローリング首相と約50人の在留邦人が出迎えました。翌29日正午から始まった首脳会談、会談では国際情勢、核実験禁止問題のほか、両国間の貿易、文化交流など広範な問題について意見が交換されました。会談のあとローリング首相主催の昼食会に臨んだ田中首相は「両国の対話を続けるため、ローリング首相が日本を訪問することを期待します」と挨拶、正式にローリング首相の訪日を要請しました。「金脈問題」をはじめ、混迷の国内政局はひとまず胸に秘め、首相就任以来の多角外交の締めくくりは自分の手でと、緊張した面持で次の訪問国、オーストラリアへ。

## 絨 維 不 況

不況の嵐が吹きあれる毛織物の町愛知県一の宮地方。機音がいつ止まるかそのおのきの中で経営者も労働者もあえいでいる。今年の6月に織機の操業を止めた機屋さんは、

「いかんいかにいいながら仕事はよくありました。去年まではいいブームでした。しかし最近の仕事が全然ない。親機から仕事がこないのです。」

1台180万で設備した織機を14万で国が買いあげるといふ。しかしこれだけでは転業資金にも足りない。今年に入って一の宮地方だけでおよそ70件の倒産や事業所閉鎖があり、1,000人以上の労働者が職を失った。一の宮公共職業安定所には毎日多くの離職者が仕事を求めてやってくる。しかし中高年令者となるとなかなか仕事が見つからない。

「僕等年くっとったもんでね、一番はじめに切られたわけですね。人員整理で。どんな仕事でも職につければいいと思ってますが……ちょっとありませんわ。」

そして10月末ここでは大手といわれる紡績工場東海レイヨンが廃業した。ここには、450人以上が働いている。これらの人の明日はどうなるのか。従業員の再就職をめぐる職業安定所のトラブルが絶えなかった。そこには引っぱりだこの若年労働者と再就職のむずかしい中高年令者の兼ね合いの問題が横たわっていたからだ。

その結果、再就職のあっせんは時期的に遅れざるをえなかった。

「一番最初に工場閉鎖するという事を社長が云うべきだ。それなのに閉場式で、それもものの2.3分でしょ。こんな情けない工場経営者はないと思う。我々人事の立場で職安や家族や学校からどうするんだといわれても会社がスタートから間違ってるから迷惑のかけどうしてほんと残念でなりません。」

11月1日東海レイヨン労働組合は、解散式を挙行了。そして長良川の河原で20年間彼等のシンボルであった組合旗を焼いた。こうして一つの工場が廃業に追い込まれその労働組合が消えた。従業員452人のうち再就職の決まった人は60%に満たない。不況は今一番弱い繊維を直激し様々の悲劇を生み出した。そして今その不況の波はますます拡がろうとしている。